

沖縄県発達障害児(者)支援に関する人材育成計画(案) に対する意見募集の結果(パブリックコメントに対する県の考え方)

- 御意見に対する県の考え方を記述しています。
- 同様な趣旨の御意見につきましては、適宜集約させて頂き、一括して県の考え方を記述しました。
- 御意見の文中、個人名、機関名等が特定されると思われる記述については、適宜、省略、要約等を行っておりますので、御了承ください。

< 目次 >

	ページ
1. 研修の開催回数等に関する御意見	1
2. 研修後のフォロー体制等に関する御意見	1
3. 研修の対象者、内容等に関する御意見	2
4. 表現等の修正に関する御意見	3
5. 支援体制の構築に関する御意見	3

1 . 研修の開催回数等に関する御意見

意見	意見に対する考え方
<p>P4～P6 対象及び実施方法の研修期間が最低、年1回について 研修期間が明記されていないので、なんとも言えないのですが、研修期間が一日だけであれば少ないと思います。もっと回数、機会を増やすべきと思います。</p>	<p>この計画に記載しているのは、具体的な研修の実実施計画ではなく、研修を企画する際の基本的な考え方、基本的な内容等に関する事です。 研修の年間開催回数、1回あたりの日数・期間、講義形式・実習形式等の具体的な実施の方法については、個々の研修を具体的に企画する段階で、その目的、対象者等に応じて検討することとなります。</p>
<p>P4～P7の 基礎研修、 専門研修（特別支援学校等支援員養成研修を除く）のほとんどの内容が講義、演習、各圏域最低年1回となっています。 該当箇所について、ほとんどの研修（基礎研修、専門研修）が最低年1回となっていますが、発達障害の特性等、理解しようとする年1回程度の研修では出来ません。 私たち保護者ですら、我が子の特性を理解するの時間がかかりました。 保護者や支援者が主催する講演会、勉強会に何回も参加（費用は全て実費です）し、我が子の不可解な行動、言動のすべての奥には意味があるんだなー！見えている部分はほんの一部でしかなく、その見えない部分を理解するために、いっぱい学びました。 それを考えると、最低年1回では形だけの研修に終わってしまいます。</p>	<p>そのため、「3. 今後の取り組み」において、関係機関や当事者等で構成するカリキュラム等の検討組織の設置、研修開催後の地域支援体制への反映、内容の改善等について、記載しているところです。 また、本計画は、「沖縄県発達障害児（者）支援体制整備計画」と連動して進めることとしております。この二つの計画の内容については、事業の実施状況、社会情勢の変化等に応じて、当然、改善すべきものと考えております。このことから、支援体制整備計画の中にも、事業実施状況の評価、改善の方法等について記載しているところです。 なお、「最低年1回」という表現については、御意見にあるように誤解を与えるおそれがありますので、修正します。</p>

2 . 研修後のフォロー体制等に関する御意見

意見	意見に対する考え方
<p>形だけの研修会に終わらせないためにも、ぜひ、研修会の後も事例検討会等のフィードバックが出来る体制を作り、引き続き専門研修会に繋いで行けるようなシステムを作って頂きたいと願っています。</p>	<p>御意見の趣旨については、2.（2）に記載しているように、課題として認識しております。そのため、「3. 今後の取り組み」において、関係機関や当事者等で構成するカリキュラム等の検討組織の設置、研修開催後の地域支援体制への反映、内容の改善等について、記載しているところです。実際の検討にあたっては、御意見の趣旨を踏まえ、研修内容、カリキュラム等の検討と併せて、研修受講者に対するフォロー、地域のリーダー育成等の仕組みについても検討することとします。</p>
<p>2ページ（2）の反省を踏まえて、今回の研修が終了した後の計画を立てておくべきである。 ・研修後の追跡調査・体験発表・実践報告などを実施し計画の見直しに役立てる。 ・研修生のリストを作成し、人材派遣や紹介がスムーズにできるようにする。 ・地域のリーダーとなれるような場の設定が必要である。各自治体にリーダーとなれる人材情報を提供し、活用を要請する。</p>	<p>また、本計画は、「沖縄県発達障害児（者）支援体制整備計画」と連動して進めることとしております。この二つの計画の内容については、事業の実施状況、社会情勢の変化等に応じて、当然、改善すべきものと考えております。このことから、支援体制整備計画の中にも、事業実施状況の評価、改善の方法等について記載しているところです。</p>

3. 研修の対象者、内容等に関する御意見

意見	意見に対する考え方
<p>P6 専門研修について 現在、親の会、成人の発達障害のための自助グループに関わっています。 発達障害の子供の場合は早期にケアが可能になりつつありますが、問題が起きるまで見過ごされていた大人とか、間違った認識で誤解など二次的なトラブルで自己評価がとて低くなってしまったケースとか、個別にケアが必要で、時間もかかる、まして、本人が否認して家族が困っているなど・・・大人だけに待たなしで問題解決に取り組まなければならない状況ですが、月例定期活動4回のミーティングも本人同士では限界があります。それに関わる家族も講演会などの知識だけでは、理解が難しいのが現状です。 学べる場と居場所として継続していかねばならないと考えていますが、手探りの状態です。毎回、専門の支援員の方に来ていただくのは限界があると思うので、現場の家族や関わりのあるメンバーで学び広めていきたいです。その手立てとして、専門家ではありませんが、研修に参加できる道を考えてほしいです。ライフワークとして、あせらず途切れない関わりを持ち、困っている人の、助けになる場を存続させたいと思います。</p>	<p>当事者団体、支援者団体等を対象者とする研修についても企画することとしております。</p>
<p>P6 専門支援者養成研修 について すでに社会で働いている人で、診断を受けていないが発達障害と思われる人の職場内でのトラブルについて、その対応の仕方の研修等、職場への支援体制を確立していただきたい。</p>	<p>御意見の趣旨を踏まえ、発達障害者の就労支援、雇用のための研修の内容、カリキュラム等について検討することとします。</p>
<p>大学生への支援について せっかく大学に入っても、人間関係が作れず孤立し大学生活がうまくいかないため、卒業が困難な学生に対する支援体制、あるいは相談者の育成をお願いしたい。</p>	<p>御意見の趣旨を踏まえて、研修内容、カリキュラム等を検討することとします。</p>
<p>P8 発達障害フォーラム内容 講演会ではインパクトが弱いのでシンポジウム・街宣活動・リーフレットの発行など、より広く多角的にアプローチが必要と思われる。</p>	<p>本計画の記載は、あくまで例示ですが、御意見の趣旨を踏まえ、多角的な啓発の手法について検討します。</p>
<p>P8 啓発パンフレットの作成 支援機関リストも含めるとより利便性がアップする。</p>	<p>御意見の趣旨を踏まえ、パンフレット等の内容について検討します。</p>

4．表現等の修正に関する御意見

意見	意見に対する考え方
<p>P4. 下から3行目 「親子教室」 「療育機関または支援機関」に修正 親子教室は乳幼児期における発達障害児支援の一形態であり、ここでは名称としてふさわしくない。また研修 は乳幼児の保護者のみを対象とするものではないから、ここで親子教室を強調すると内容にそぐわない。乳幼児期から成人期まで保護者の幅は広いので、どの年代にでも対応できる言葉を使うべきである。</p>	<p>御意見の趣旨を踏まえて表現を修正します。</p>
<p>P9 「親子通園事業所等」 「療育機関または発達障害支援事業所」に修正 乳幼児支援に限定されるような誤解を与えかねない。</p>	
<p>P10 「親子教室・親子通園」 「早期療育事業等」に修正 計画（案）の中、随所に「親子通園」の文字が見られるが、乳幼児期への支援は「親子通園」のみならず、「相談支援」という重要な支援形態もある。 乳幼児期の発達支援のひとつとして「親子通園」があり「相談支援」がある。「親子通園」の意義を否定するものではないが、この計画案に記載する言葉としてはふさわしくない。 また、共働き家庭の多い沖縄では「親子」を強要するような表記は反感を持たれるので使うべきではない。全国的に他の用語が使われているのがもっぱらである。「母子通園」が「親子通園」になり「早期療育事業」「通園療育」等へ変化している現状を認識し、保護者の精神的負担を軽くして欲しい。</p>	<p>御意見のとおり修正します。</p>
<p>P4. 下から3行目 「関係者等交流会」 「関係者等」に修正 「交流会」は5ページの一行目に内容としてあるので、4ページで対象として入れてはおかしい。</p>	

5．支援体制の構築に関する御意見

意見	意見に対する考え方
<p>私たち保護者は常に不安の中で子育てをしています。同じ様な環境の中で過ごしている保護者同士が繋がる事は、とても心強くもありお互いの子どもの成長も見守る事も出来るようになり、さらに周りの困っている方々の力にもなります。是非、市町村単位で保護者会等にもう少し力を貸して頂きたいと思います。 読谷村が良い例です。教育委員会主催のペア・トレを行い、卒業した保護者を集めて初めた保護者会が繋がりはじめて、周りの保護者のために（先輩保護者としてのアドバイスなど）頑張ろうとしています。 もう一度、現場の声（支援者や学校・幼稚園・保育園の現場）、当事者のニーズや保護者の声を拾って頂きたいと思います。 教育現場もとても厳しいのですが、就労に関しても更に厳しいものがあります。毎年子ども達は大きくなり、卒業していきます。支援を受けられないまま不登校になり、引きこもった子ども達の将来はどうなるのでしょうか。</p>	<p>「沖縄県発達障害児（者）支援体制整備計画」と本計画を連動させて進めることにより、県、市町村、保健医療機関、教育機関、就労支援機関、当事者団体等の関係機関・団体が連携して、地域における一貫した支援システムの構築を図っていきたいと考えております。</p>